

付着生物ラーバ情報

ユウレイボヤラーバの出現が続いています

1 ラーバの出現状況

ラーバの調査地点は図1、出現数は表1、出現数の推移は図2、3のとおりです。

(1) ユウレイボヤ (通称: ハナ、ゴダゴダ)

ラーバは奥内沖で2月10日、2月17日にそれぞれ0.8個体/m³、2月12日に野辺地沖で1.6個体/m³、2月17日に久栗坂沖で6.7個体/m³見られました(表1、図2)。

(2) ムラサキイガイ (通称: カラスガイ、シュリ、マルゴ)

ラーバは2月10日に奥内沖で7.5個体/m³、2月12日に野辺地沖で12.5個体/m³、2月17日に奥内沖で14.2個体/m³、野辺地沖で6.3個体/m³、久栗坂沖、川内沖とともに13.3個体/m³見られました(表1)。

(3) キヌマトイガイ (通称: コメガキ)

ラーバは2月10日に奥内沖で2.5個体/m³、2月12日に野辺地沖で15.6個体/m³、2月17日に奥内沖で5.8個体/m³、久栗坂沖で20.6個体/m³、野辺地沖で10.2個体/m³、川内沖で133.6個体/m³見られました(表1、図3)。

(4) ミネフジツボ (通称: カキ)

ラーバは2月12日に野辺地沖で0.8個体/m³、2月17日に奥内沖、川内沖とともに0.8個体/m³、久栗坂沖で1.1個体/m³見られました(表1)。

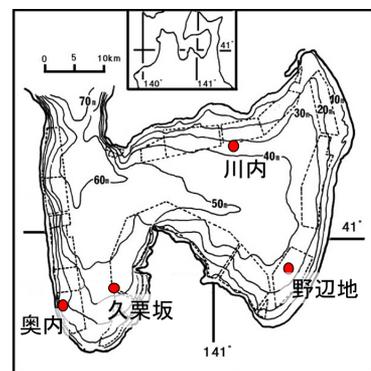


図1 付着生物ラーバの調査地点

表1 ラーバの出現状況

単位: 個体/m³

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	キヌマトイ ガイ	ムラサキ イガイ	ミネ フジツボ
奥内沖	R7.2.10	0.8	2.5	7.5	0.0
	R7.2.17	0.8	5.8	14.2	0.8
久栗坂沖	R7.2.17	6.7	20.6	13.3	1.1
野辺地沖	R7.2.12	1.6	15.6	12.5	0.8
	R7.2.17	0.0	10.2	6.3	0.0
川内沖	R7.2.17	0.0	133.6	13.3	0.8

※久栗坂沖、川内沖は実験漁場内

2 今後の見込み

(1) ユウレイボヤ

陸奥湾内の中層水温は西湾で7~10℃台、東湾で4~7℃台と、**西湾の一部海域ではユウレイボヤが産卵する8℃以上の水温**となっています。

10月以降の**ラーバ累積出現数**は、**奥内沖で38.4個体/m³、久栗坂沖で21.9個体/m³、野辺地沖で13.3個体/m³**と付着数が多くなる目安である5.0個体/m³よりさらに増えました。

また、西湾では水温が高いため、今後もラーバが出現する可能性があり、ラーバ累積出現数が増加すると**さらに大量付着し、出荷時期に作業効率が低下**すると考えられます。

(2) ムラサキイガイ

秋から冬生まれのラーバはほとんど付着しないことが分かっています。

(3) キヌマトイガイ

ラーバが多く出現し続けている**東湾海域では大量付着している**可能性があります。

(4) ミネフジツボ

ラーバが**出現してきました。これからピーク**を迎える可能性があります。

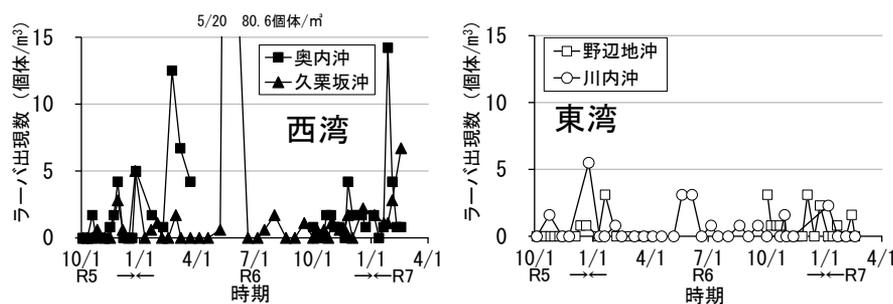


図2 ユウレイボヤラーバ出現数の推移(令和5年10月~令和7年2月)

・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾25個体/m³、東湾10個体/m³

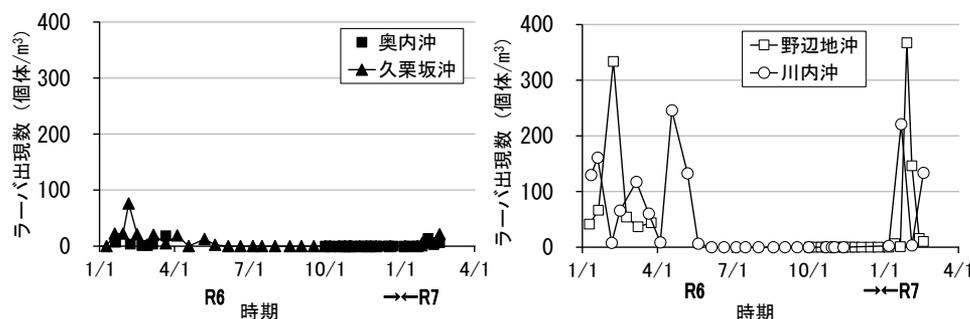


図3 キヌマトイガイラーバ出現数の推移(令和6年1月~令和7年2月)

・平成25年の観察開始から令和5年までの最大値: 西湾915個体/m³、東湾4,483個体/m³

